



電子ジャーナルコンソーシアム —これまでの実績と今後の取り組み—

大熊 高明

I. 電子ジャーナルの普及とコンソーシアムの成立

日本の学術・研究図書館における電子ジャーナルの導入は、過去数年のあいだに驚くべき速度と規模をもって進んだ。当初は出版社の多くも試験的に電子ジャーナルを提供するというスタンスをとっており、冊子体購読者に対する無料アクセス権の付与、あるいは長期にわたる無料トライアルの実施といった事例が少なくなかった。しかし、この2年ほどの間に、電子ジャーナルを有料化する出版社の数も急速に増加し、冊子体価格に対する一定の追加料金支払い（アドオン）方式、あるいは電子ジャーナル単体での購読といった多様な契約形態が見られるようになってきている。このことは、電子ジャーナルの存在が広く認知されるに至ったこと、また他方においては有料化に値するレベルにまで各出版社の電子ジャーナルの機能や利便性が高まったことを如実に示しているであろう。

とはいえ、電子ジャーナルの利便性がいかに広く認められようとも、この有効なリソースを無制限に導入するのは、現実的に不可能であるというのが多くの図書館ユーザーから聞かれる声である。景気低迷や学生減などに起因する図書館予算の削減、年々値上がりする外国雑誌原価、さらに2002年度についていえば雑誌年間購読契約期において急激に進行した円安といった

さまざまな問題が、電子ジャーナルを含む外国雑誌の購読数拡大に歯止めをかけている。

このような実状にあって、最近とりわけ注目を集め、実際に参加する機関も増えている契約形態がコンソーシアムである。コンソーシアムは、ある一定の数の機関が、特定の出版社やアグリゲーターの提供するコンテンツに対して集合的に契約を行う方式であり、米国の Ohio LINK 等が国外では存在し、さらに世界各国の図書館コンソーシアムによって構成される連合体 ICOLC もすでに設立されている。

コンソーシアムの利点はさまざまな観点から言及されているが、特に現在の日本の学術・研究図書館の置かれている状況に立つならば、図書予算が年々減少するなかで複数の機関が結集することにより、通常よりもはるかに抑制された価格体系で多くのリソースにアクセスできるという「規模のメリット」を第一に挙げることができるであろう。他方において、出版社やアグリゲーターの側においても、コンソーシアム設立にあたって一定の条件を顧客側に求めることにより、歯止めのかからない購読キャンセルに伴う収益の減少を抑制しうる点がメリットとなっている。

こうした趨勢の中で、弊社も外国雑誌の国内販売代理店として、日本の図書館界が抱える問題とニーズを出版社に伝えながらコンソーシアムの実現に務めてきた。弊社が関わるコンソーシアム設立例は年々増加し、そのパターンも多様化している。ここでは日本医学図書館協会（以下、医図協）の加盟館を中心に設立された

Blackwell Science / Munksgaard コンソーシアム、および日本薬学図書館協議会（以下、薬図協）の加盟館により設立された American Chemical Society コンソーシアムを紹介したい。

II. コンソーシアム設立事例

1. 医図協 Blackwell Science / Munksgaard コンソーシアム

本コンソーシアムは、Blackwell Science / Munksgaard が提供する理工医学系の電子ジャーナル (Science and Medicine Collection) を医図協加盟館に包括的に提供すべく2001年度に設立され、初年度には13大学図書館が参加し、さらに2002年度には、薬図協加盟館からの合流分も含めて22大学図書館の参加をみた。

本コンソーシアム設立にあたっての価格体系は初年度より一貫しており、①コンソーシアム設立料金（一定の固定料金を参加館の間で均等割り）、②各参加館に所属する教職員・学生数 (FTE = Full Time Enrollment) の多寡に応じて3段階に区分されたアクセス料金、という2種類の料金の合算で構成される (表1)。

この価格体系では、参加館数が増えるほどコンソーシアム設立料金の各館負担額が少なくなる点、また図書予算が相対的に少ない小規模館ほどアクセス料金が低くなる点が特徴となっている。つまり個々の図書館の負担しうる予算に配慮しつつ、コンソーシアム全体の観点からも、規模が大きくなるほど参加館のメリットが増す仕組みとなっているのである。22館が参加した

2002年度について言えば、提供される331タイトルの冊子体価格総額に比して、小規模図書館のコンソーシアム参加料金は僅か1.6%程度に過ぎず、大規模図書館の参加料金でもその比率は約4.5%にとどまっております、参加のメリットは非常に大きいと言えよう。他方、コンソーシアムに参加するにあたって、各図書館は前年度に購読していたすべての冊子体タイトルを継続購読することが条件となっており、これが出版社サイドにとってのメリットとなっている。

2. 薬図協 American Chemical Society コンソーシアム

本コンソーシアムは2002年度に初めて設立され、薬図協に加盟する企業および大学図書館11機関が参加した。本コンソーシアムの場合、加盟館が購読する冊子体価格総額（当該図書館だけでなく、同一法人内の全部門の購読冊子体をカウント）の15%相当額を上乗せすることによって、American Chemical Society が発行する24タイトルの電子ジャーナルへのマルチサイト・アクセスが可能になる。

American Chemical Society が提供する電子ジャーナルの契約形態は通常、シングルサイトでのアクセスを前提とする Option A と、マルチサイトでのアクセスを前提とする Option B に大別される。Option A の場合、冊子体とのセット購読か否か、IP アドレスの指定範囲が Class B か Class C によって異なる価格体系が用意されている。Class C まで IP アドレスを絞り込めば、冊子体とセットにしても通常冊子体価格の120%で契約が可能であるが（電子

表1. 2002年度Blackwell Science / Munksgaard コンソーシアム価格体系

コンソーシアム設立料金 (参加館で均等割り)			¥1,117,000
+			
FTE	7,000人以下	7,001人~15,000人	15,001人以上
アクセス料金	¥350,000	¥702,000	¥1,054,000

例) コンソーシアムに20館が参加した場合に、FTE 7,000人以下の機関が支払う料金
 $(¥1,117,000 \div 20) + ¥350,000 = ¥408,500$

ジャーナルのみを購読する場合には通常冊子体価格の110%)、Class B まで範囲を広げて冊子体とセット契約する場合には通常冊子体価格の190%を支払わなくてはならない(同165%)。他方、Option B の場合は、すべてのサイトで購読している冊子体が価格算出時の対象となるが、アドオン率は15%に低減される。

本コンソーシアムの価格体系は Option B のそれを基本とするものだが、通常の Option B でアクセスできる電子ジャーナルが、自館の冊子体購読タイトルに限定されるのに対し、コンソーシアム参加館は自館で購読しているか否かを問わず、ひとしく24タイトルの電子ジャーナルにアクセスすることができる。したがって、予算規模が総体的に小さく、支払額が少ない図書館にとっては、特にメリットのあるモデルと言うことができよう。

Ⅲ. より良いサービスの実現に向けて

ここに紹介したコンソーシアムの事例は、いずれも理想的な最終モデルというわけではない。近隣のアジア諸国で実現しているような国家政策的コンソーシアム(コンテンツに対する特別予算も含め)とは異なり、さまざまな団体がそれぞれに異なる規模のコンソーシアムを形成し、その一方で出版社サイドにおいてもおのおのが独自の(往々にして複雑な)モデルを構築している現状にあっては、今後に向けて多くの変更や改善の余地が認められる。そして、弊社のような販売代理店は、自らの顧客の直面する実状を十分に把握しつつ、出版社との長期にわたる煩雑な交渉を通じたより良いモデルの構

築、無料トライアルをはじめとする円滑な導入の推進、契約後のアフターケアなどを適切に行っていくことが求められていると考える。

ただし、電子ジャーナル利用の将来的な発展を考えれば、個々の出版社ごとにコンソーシアム契約を成立させるだけでなく、異なる出版社のコンテンツをより効率的に利用できる環境を創出していく努力もまた欠かせないであろう。弊社の提供するプラットフォーム Knowledge Worker では、上述の Blackwell / Munksgaard、American Chemical Society はもちろんのこと、Elsevier Science (CrossRef 経由)、John Wiley & Sons、Springer Verlag、Lippincott Williams & Wilkins など17の主要出版社が提供する電子ジャーナルについて(2002年4月現在)、弊社受注分のタイトルへのフルテキストリンクを実現している(図1)。したがって、Knowledge Worker のユーザーは、複数の出版社のホームページへ別個にアクセスし、同じ検索を繰り返すことなく、一度の検索でさまざまな出版社の電子ジャーナル・フルテキストへアクセスすることができる¹⁾。

今後もこのようにさまざまな観点から、利用者にとってより有効な電子ジャーナルのサービスを実現すべく努めていきたい。

参考文献

- 1) 篠田かずえ: Knowledge Worker 病院図書室の電子利用のためのサポート. ほすびたるらいぶらりあん. 2001; 26(4): 294-298.

各出版社電子ジャーナルのフルテキストへ

Knowledge Worker 検索結果から

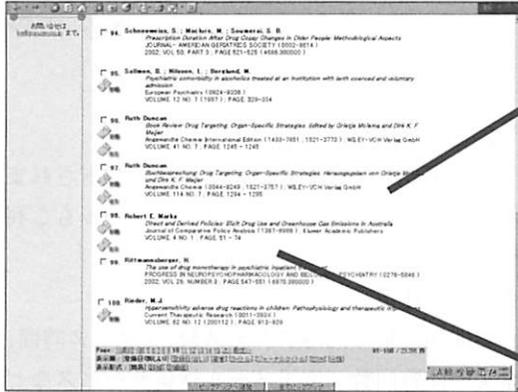


図 1. Knowledge Worker のフルテキストリンク